

平安時代

- 835年 この地方を「矢部郡」と云い明治29年まで続く
- 988年 駒ヶ林神社の伝えに「左義長」建つとあり

鎌倉時代

- 1179年 平清盛巖島神社参詣途上に駒ヶ林に寄港
- 1289年 海泉寺・宝珠庵・慈眼庵・松源庵・松月庵が駒ヶ林に創建される
- 1335年 湊川合戦で尊氏軍が駒ヶ林付近から上陸

戦国時代

- 1582年 太閤検地が始まる
- 1593年 駒ヶ林総池築造

江戸時代

- 1815年 駒ヶ林に阿弥陀堂（ごこ寝堂）再建

明治

- 1873年 阿弥陀堂を「駒野小学校」として開設
- 1875年 駒ヶ林魚市場を開設
- 1887年 林田村として合併（駒ヶ林・野田村・西池尻・東池尻・御崎村・吉田新田）
- 1887年 真陽小学校創立（駒野小学校閉鎖）
- 1888年 山陽電気鉄道兵庫～明石間開通

大正

- 1914年 耕地整理工事
- 1918年 大正筋商店街誕生
- 1916年 長楽小学校創立

昭和

- 1929年 二葉小学校創立
- 1938年 神戸大水害
- 1945年 B29による空爆で神戸港が爆撃を受ける
- 1954年 ケミカルシューズ地場産業誕生
- 1959年 最後の駒ヶ林左義長祭

平成

- 1991年 駒ヶ林まちづくり協議会発足
- 1993年 駒ヶ林左義長祭が復活
- 1995年 阪神淡路大震災
- 2003年 「駒っぷその2」完成



- 最寄り駅 地下鉄海岸線 「駒ヶ林駅」
- 駒ヶ林へのアクセス 地下鉄海岸線「三宮・花時計前駅」から電車で15分 地下鉄海岸線「新長田駅」から電車で1分 JR新長田駅から徒歩約10分

駒ヶ林まちづくり協議会

駒ヶ林まちづくり協議会では、地域の様々な事柄について話し合い、活動しています。この「駒っぷ（歴史のまち編）」づくりもその活動の一環です。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「駒っぷ」を作成したメンバー

浦井 清五	岡田 隆義	小畑 徳江	面出 輝男
貝塚 元良	来田 昭子	北村 美代子	小林 昌彦
紺社 昭三	辰巳 昭子	俊成 公司	中西 徹一
中本 正	美濃 逸子	室田 千恵子	山口 教一



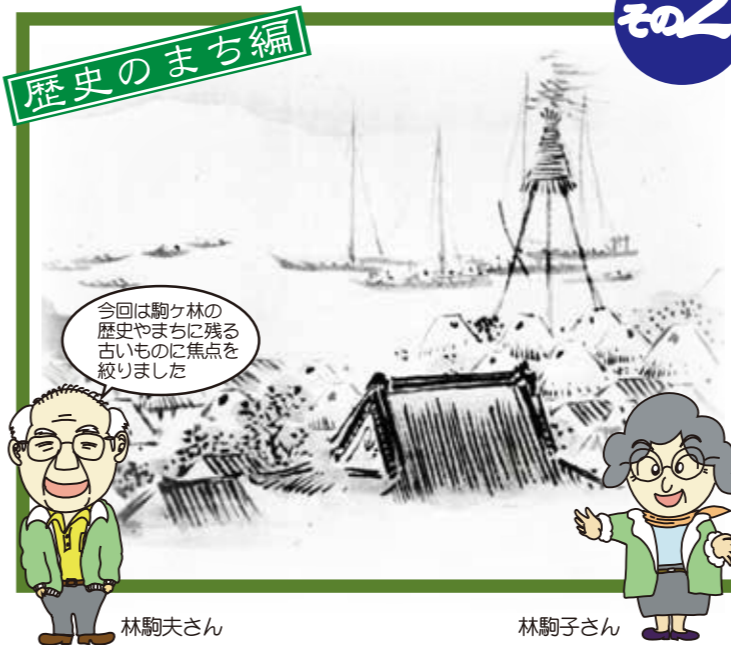
発行：駒ヶ林まちづくり協議会
平成15年12月

駒っぷ

KOMAP

駒ヶ林まちづくり協議会

その2



歴史のあるまち駒ヶ林

駒ヶ林は、大輪田泊の一部ともいわれ、歴史上も重要な港でした。コマガバヤシの名の由来は、大昔に高麗の船が出入していたので「高麗返し」がなまったものといわれるなど、幾つかの説がありますが大変古い歴史があることに間違いありません。治承三年（一一七九）には、平清盛が宮島へ参詣する際に和岬をまわって駒ヶ林に上陸したとあり、源平の戦いでも平家の軍船が沖に集まったといわれています。近年に至っても、戦災・水害等からの大きな被害はまぬがれ、震災の影響はあるものの、古い歴史を今に伝えているまちです。



左義長祭

駒ヶ林では千年以上昔から続いた「サギッチョ」や「トンド」と呼ばれる行事がありました。この行事は「お山」と呼ばれるやぐらを、東と西の村に分かれて村の漁師達が、浜辺で倒し合いを争うものです。勝った方の村には、その年の網入れの優先権を持つことになるので、争いは壮絶をきわめときには血を見ることもありました。このため「駒ヶ林のけんか祭り」とも言われてました。長田港の築造とともに浜が次第に埋め立てられ開催場所がなくなり、昭和34年を最後に中止することになりました。

平清盛の寄港

仁安2年（1167）平清盛は太政大臣となり強大な権力を手中にします。清盛は兵庫区南部にあった港「大輪田泊」を修築して日宋貿易の拠点とし、福原に遷都（1180）を断行します。その前年、治承3年（1179）6月9日、安藝国の巖島神社参詣途上に駒ヶ林（当時の記述では「小馬林」）に寄港する様子が、藤原忠親の日記「山槐記」に描かれています。

足利尊氏の船出と上陸

建武3・延元元年（1336）新政府に反逆した足利尊氏は京を追われ九州に下るときに駒ヶ林神社に参詣し、駒ヶ林の浜から船出したと伝えられ、その時に詠んだ歌が残されています。同年4月、尊氏率いる軍勢は海陸の二手に分かれ、湊川で天皇方との決戦に臨みます。このときにも駒ヶ林から上陸したと推測されます。それに対する天皇方は新田義貞、楠木正成らが迎え討ちますが、圧倒的な兵力差で尊氏軍が勝利しました。

長田港の築造

長田港（駒ヶ林港）の歴史は古く、奈良時代から平安時代にかけて遣唐船の出入りがあり、その船繋所であったといわれています。古くから海上交通の良港として栄え、摂播五泊の一つとして数えられるほど重要な港でした。昭和36年に埋め立てて新港が完成し、長田港と名付けられました。以来、重要な漁港であると同時に、フェリーボートの発着場としての機能を主力に、長田港は金属製品や重油等の積み下ろし港として発展してきました。しかし現在では、発着場が移転して以前のような活気が失われつつあります。